

## 昆虫採集のフェティシズム —西表島のマルバネクワガタ採集を事例に—

満保直彦

キーワード：フェティシズム、蒐集、昆虫採集、文化昆虫学、人間と自然の関係

### 要旨

本研究の目的は、沖縄県竹富町・西表島に生息するマルバネクワガタと同種を採集するために毎年秋に来島する採集者の関係に焦点を当て、マルバネクワガタ採集を構成する「採る」と「集める」ことに着目し、本種の採集がいかに実践されるのか、さらに「生きもの」から「もの」へと変化するフェティッシュとしての昆虫という存在が採集者にいかなる影響を与えているのかをオートエスノグラフィ的的手法によって明らかにすることである。

本研究は7つの章から構成される。

序章では「はじめに」で本研究に至った経緯について述べ、続いて本研究の目的と論文構成を提示する。

第1章では「もの」と人間の関係についての学術的議論を概観したのち、本研究の理論的枠組みであるフェティシズム、また「もの」の蒐集についての理論を紹介する。元々は西アフリカの人々の崇拜対象であるモノを示すフェティッシュに由来し、その宗教実践を意味する概念であったフェティシズムは、「もの」と人間の多様な関係を明らかにしようとする概念として注目される。長尾（2014）はフェティシズムをより広義に捉え、「ヒトがモノに熱中し、夢中になり、時にはモノを崇拜し神格化するような行為」であるとし、フェティッシュは「人に影響力を持つモノ、人を魅惑するモノ」であるとした。本研究では採集者を魅了し働きかける主体としてのマルバネクワガタの存在に注目する。

第2章では調査地である西表島、調査対象であるマルバネクワガタ、フィールドワークの概要を紹介する。本研究では筆者自身による採集実践および参与観察、調査協力者へのインタビューなど現地でのフィールドワークを行い、活動で得たデータはフィールドノートへの記録、スマートフォンでの写真撮影・音声録音などの形で収集した。

第3章ではマルバネクワガタ採集の「採る」過程に着目し、採集者の実践とマルバネクワガタの存在について考察する。採集者はマルバネクワガタの生態に合わせた装備を整え、夜の山林を歩いてマルバネクワガタを探す。このときマルバネクワガタはその存在が不確定ないしは不在な状況下においても採集者に興奮・落胆といった感情や次なる行動を喚起する。また、大歯型やサイズの大きな個体は、採集者が見つけたときに大きな興奮を喚起する。採集者はマルバネクワガタを闇雲に採るのではなく、大歯型や特徴的な個体を採集する。「珍しい個体」は、採集者の眼前に現れたときに採りたい欲求を喚起させ、実際に採る行為まで起こさせる。さらに、「珍しい個体」を持っていないという事実（＝フェティッシュの不在・欠落）は採集者たちに更なる採集欲求を喚起すると考えられる。

第4章ではマルバネクワガタを「集める」過程に焦点を当てる。マルバネクワガタを「採る」ことは、野生生物としての「生きもの」から標本としての「もの」へと移行させる過程といえる。「生きもの」と「もの」のどちらの側面に価値を見出し、より強い欲求を抱くか

が、べるタイミングを規定する。採集者は軟化・展足・ラベル付けといった標本製作を行うが、このときマルバネクワガタの「生きもの」としての有限性と、マルバネクワガタ自体が持つ様々な魅力は、採ったマルバネクワガタを「もの」として残したい欲求を採集者に喚起する。また、本研究の調査協力者たちは自分の手で採った「自己採个体」にこだわってマルバネクワガタを蒐集するが、それは自己採个体には採集者自身との個別的・直接的な関わり（採ったときの思い出など）があり、標本になっても採集者に過去の関わりを想起させる存在であるためと考えられる。

第5章では、現地における他の採集者との交流に着目し、他の採集者の存在と採集者間の交流時におけるマルバネクワガタの存在について分析する。他の採集者は競合相手である一方で、採集時以外の時間・場所での交流を深めた採集者たちは互いを「マルバネクワガタ採集において不可欠な存在」として肯定的に認識し、採集意欲を喚起しあう。このときフェティッシュとしてのマルバネクワガタは、採集者間の交流を創発する存在でもある。

終章では、フェティッシュとしてのマルバネクワガタが自らの形態・生態をもって採集者に対して採集欲求を喚起する魅力的な主体として存在していると論じる。また、「自己採」个体にこだわりをもつ調査協力者たちはマルバネクワガタ自体に加えて、採集過程にも魅力を見出して採集している。マルバネクワガタが採集者に喚起する欲求、マルバネクワガタならではの形態・生態、「フェティッシュとしてのマルバネクワガタ」を共有する他の採集者の存在、マルバネクワガタを取り巻く行政的な事情などが複雑に絡まりあい、採集者が毎年のように西表島を訪れてマルバネクワガタを採集する状況がもたらされていると考えられる。本研究から得られた知見は、広範な事物をフェティッシュとする近年のフェティシズム論や、昆虫採集をはじめとする生物に関わる趣味娯楽の今後のあり方を検討する際に一つの視座となると考える。